

PRIMERGY BX600

はじめにお読みください

このたびは弊社の製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本書をご覧になり、PRIMERGYを使用する準備を行ってください。

本書に記載されていない項目や詳細な手順については、PRIMERGY スタートアップディスク内の
各マニュアルを参照してください。

■本製品のマニュアルについて

本製品の各マニュアルは、PRIMERGY スタートアップディスクに格納されています。

PRIMERGY スタートアップディスクをセットし、「PRIMERGY スタートアップディスク」画面から「PRIMERGY マニュアル」をクリックして参照してください。

・各マニュアルは、Adobe Systems 社の Acrobat® Reader® または、Adobe® Reader® で表示できます。Acrobat® Reader® は、バージョン 5.0 以降をご利用ください。

なお、Adobe® Reader® は、PRIMERGY スタートアップディスクからインストールできます。

・本書は PRIMERGY BX600 S3 シャーシおよび PRIMERGY BX620 S4 サーバブレードに対応しています。本書に記載されていないシャーシやサーバブレードに関する情報は、インターネット情報ページ (<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/>) 内の『マニュアル』から関連するマニュアルを参照してください。

・本書では、本製品の各マニュアルを次のように表記しています。

正式名称	本書での表記	概略
PRIMERGY BX600 はじめにお読みください	本書	設置から接続、OS のインストールまでの基本操作
PRIMERGY BX620 S4 サーバブレード ユーザーズガイド	ユーザーズガイド	サーバのセットアップから運用までの詳細
PRIMERGY BX600 S3 シャーシ ハードウェアガイド	シャーシ ハードウェアガイド	シャーシの取り扱いやオプションの搭載方法など
PRIMERGY BX600 マネジメントブレード ハードウェアガイド	マネジメントブレード ハードウェアガイド	マネジメントブレードの取り扱いや操作方法など

1 梱包物を確認する

『梱包物一覧』を参照し、梱包物／添付品が揃っているか確認してください。万一、欠品などがございましたら、担当営業員までご連絡ください。

カスタムメイドサービスを利用してご購入された場合は、添付の『保証書』『構成品一覧』が添付されている場合は『構成品一覧』を参照してください。

2 『安全上のご注意』を確認する

本製品をお使いになる前に、シャーシまたはサーバブレードに添付の『安全上のご注意』を必ずご確認ください。

3 設置場所を確認して設置する

ラックは必ず固定し、転倒防止用スタビライザを取り付けてください。

ラックの設置に関する詳細は、ラックに添付のマニュアルを参照してください。

■設置場所の条件

本サーバを設置するときは、次の場所は避けてください。

- ・湿気やほこり、油煙の多い場所
- ・通気性の悪い場所
- ・火気のある場所
- ・水のかかる場所
- ・直射日光の当たる場所や、暖房器具の近くなど、高温になる場所

- ・周囲温度が 10 ～ 35℃の範囲外の場所
- ・湿度が 20 ～ 80% の範囲外の場所
- ・塩害地域
- ・腐食性ガスが発生する地域
- ・電源ケーブルなどのケーブルが足に引っ掛かる場所
- ・テレビやスピーカーの近くなど、強い磁気が発生する場所
- ・振動の激しい場所や傾いた状態など、不安定な場所

ほこりの多い環境においては、短い期間でサーバ前面および背面部にほこりが付着します。

故障の原因となりますので、設置場所を変更されることをお勧めします。

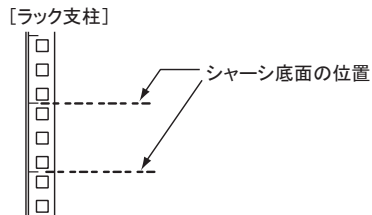
■ シャーシのラックへの搭載

- ・ シャーシをラックに搭載したりラックから取り外す場合は、修理相談窓口に連絡してください。
- ・ レールの取り付けミスを防ぐため、シャーシに添付の「PRIMERGY BX600 S3 搭載用テンプレート」を使用してください。

1 ラックのフロントドアとリアドアを開けます。

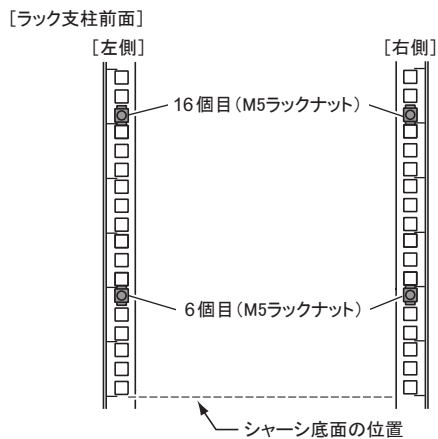
2 シャーシ底面の位置を確認します。

ラック支柱の穴の間隔が狭い位置のいずれかを、シャーシの底面にします。



3 ラック支柱前面にラックナットを取り付けます。

シャーシの底面から6個目と16個目に、内側からツメが上下になるように引っ掛けて取り付けます。ラックナット取り付けの詳細は、ラックに添付のマニュアルを参照してください。



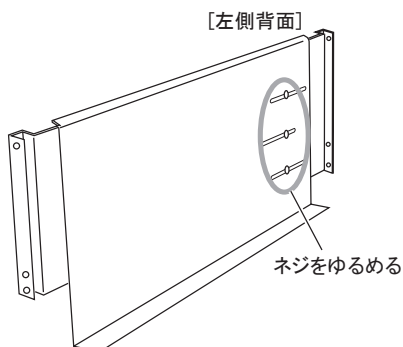
4 ラックレールの左右の確認をします。

ラックレールには、右用と左用があります。ラック支柱前面に向かって右側には「R」、左側には「L」の表示があるレールを取り付けます。

レールを左右反対に取り付けると、シャーシを搭載できません。

5 長さ調整部のネジをゆるめます。

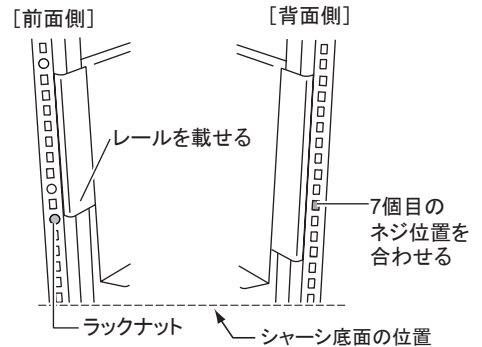
3箇所をゆるめます。



6 ラックレールをラックに取り付けます。

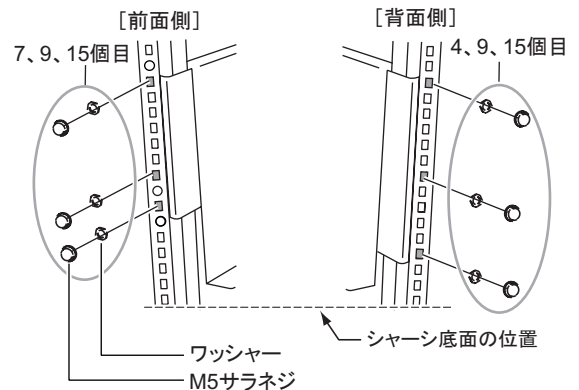
1. ラックレール前面側を、手順3で取り付けしたシャーシ底面から6個目のラックナットに載せます。
2. ラックサイズに合わせてラックレールの長さ調整部を水平に伸ばします。

レール背面側に取り付けられている位置決めネジの頭を、シャーシ底面から7個目の穴に入れて引っ掛けてください。



位置決めネジを取り外さないでください。

3. ラックレール前後のネジ位置をラックに合わせて、ワッシャーとともに M5 サラネジで取り付けます。

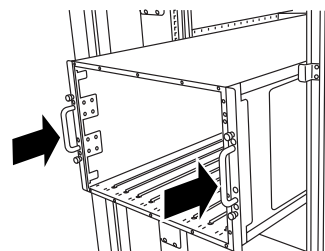


M5 サラネジが、ラック支柱穴の中心に取り付けられていることを確認してください。

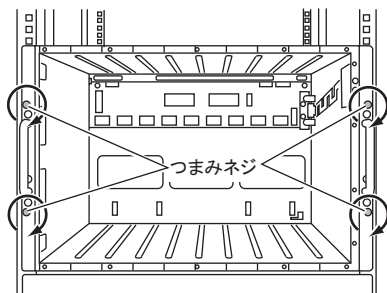
4. 手順5でゆるめた長さ調整部のネジを、しっかりとしめます。

7 シャーシをラックに取り付けます。

レールにシャーシを載せ、後方にスライドさせてラックに搭載します。



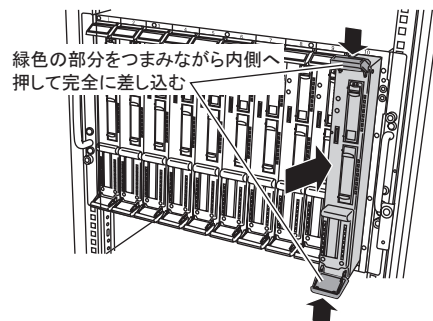
8 シャーシとラックを固定します。



取り付け時は必ずシャーシを後方にスライドさせ、完全にラックに固定してください。

9 サーバブレードまたはダミーサーバブレードをシャーシに搭載します。

サーバブレードスロットに空きがないようにします。



・シャーシやサーバブレードをスライドさせる場合や元に戻す場合は、指や衣服が挟まれないように注意してください。けがをするおそれがあります。

・ラックレールにはロック機構がありません。シャーシを引き出すときには、落下しないように十分注意してください。

・BX620 S4 サーバブレードを BX600 S2 シャーシのサーバブレードスロット 4、10 に搭載しないでください。正常に動作しないことがあります。

・サーバ本体や周辺装置が搭載されていない場所には、ラックに添付のブランクパネルを取り付けてください。

4 内蔵オプションを取り付ける

内蔵オプションを別途ご購入した場合は、OSをインストールする前に取り付けます。

実際に内蔵オプションを取り付ける場合は、次のマニュアルを熟読の上、作業を行ってください。

◎ シャーシハードウェアガイド ▶▶ 「第4章 オプションの取り付け」

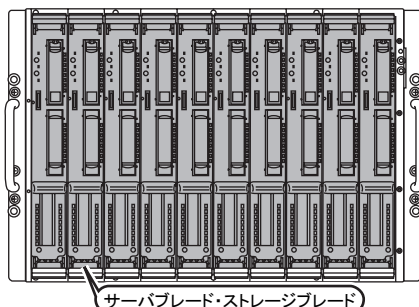
◎ ユーザーズガイド ▶▶ 「第7章 内蔵オプションの取り付け」

その他 ▶▶ オプション製品のマニュアル

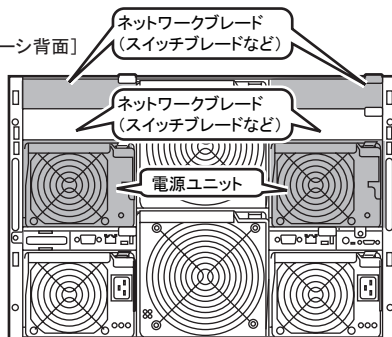
- ・ファイバーチャネル拡張ボードを搭載したサーバブレードをシャーシに搭載する場合は、対応するファイバーチャネルスイッチブレードまたはファイバーチャネルパススルーブレードの SFP モジュールスロットに、SFP モジュールを搭載してください。
- ・内蔵オプションを搭載後、搭載場所や搭載順序が正しいこと、ケーブルが確実に接続されていることを確認してください。
- ・サーバブレードの内蔵オプションについては、『ユーザーズガイド』を参照してください。

■内蔵オプションの種類と取り付け位置

[シャーシ前面]



[シャーシ背面]



5 各種ケーブルにタグラベルを貼り付ける

周辺装置の接続を行う前に、添付のタグラベルを各ケーブルに貼り付けます。タグラベルを貼り付けることによってケーブルの識別が容易になり、ケーブルの接続ミスなどの事故を防止できます。

■記入例

タグラベルは、ケーブル両側のコネクタに近い位置にそれぞれ1枚ずつ使用します。

以下の記入例を参考にして、各内容を記入してください。

↓サーバ側

↓接続先(切替機)側

元	BX600 S3	PSU #1
先	AC-01	PORT #1

元	AC-01	PORT #1
先	BX600 S3	PSU #1

接続元のサーバ名を記入します。

タグラベルによっては、接続口番号を記入する欄があります。

接続先のコネクタ名/切替機名/識別名/タップ名/コンセント名などを記入します。

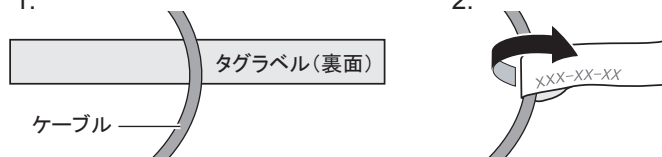
タグラベルによっては、接続口番号を記入する欄があります。

■貼り付けかた

ケーブルのコネクタに近い位置に、タグラベルの中心からケーブルに巻きつけるように貼り合わせてください。

1.

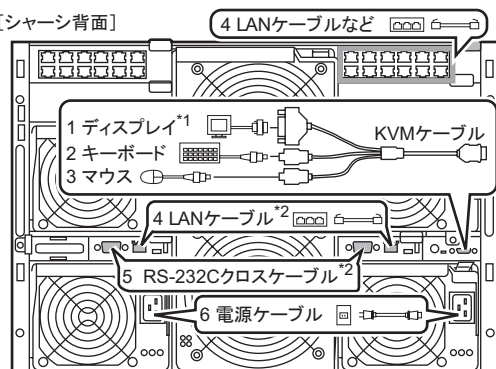
2.



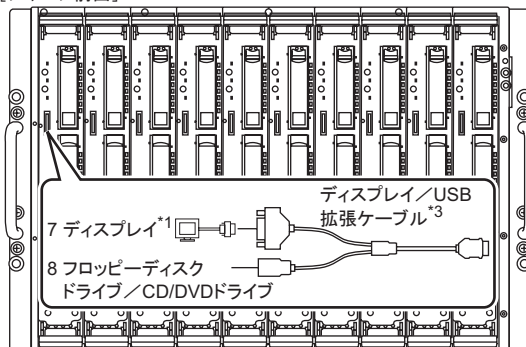
6 周辺装置を接続する

サーバ本体に、キーボードやマウスなどの周辺装置を次の順番で接続します。

[シャーシ背面]



[シャーシ前面]



*1) ディスプレイは、KVMケーブルとディスプレイ/USB拡張ケーブルのいずれかに接続してください。

*2) マネジメントブレードのLANケーブル/RS-232Cクロスケーブルは、必要に応じて接続してください。

*3) ディスプレイ/USB拡張ケーブルは、コネクタの切り欠きをサーバブレードのコネクタに合わせて接続してください。

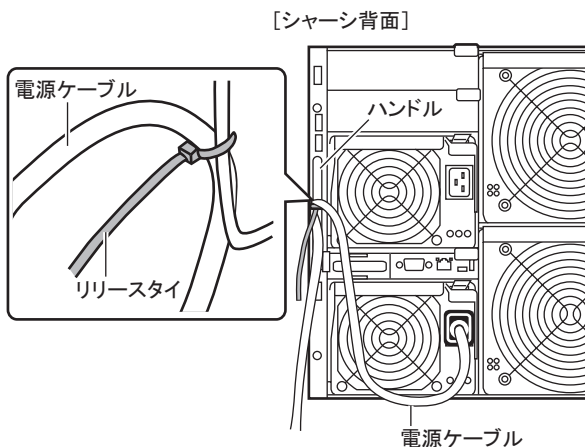
・電源ケーブルは、用途に合ったものを使用してください。また、コンセントボックスを使用する場合は、必ずラック内に設置してください。電源ケーブルおよび電源ケーブル接続用のオプションには、次の種類があります。

- AC200V 電源ケーブル (AC200V 専用シャーシに標準添付)
- AC100V 電源ケーブル (AC100V 専用シャーシに標準添付)
- シャーシ-コンセントボックス間接続用 AC200V 電源ケーブル (オプション)
- コンセントボックス (AC200V 用、オプション)

・接続したケーブル類の配線については、シャーシをラックから引き出して作業することを考慮し、余裕を持たせた配線を行ってください。

■ リリースタイによる電源ケーブルの固定

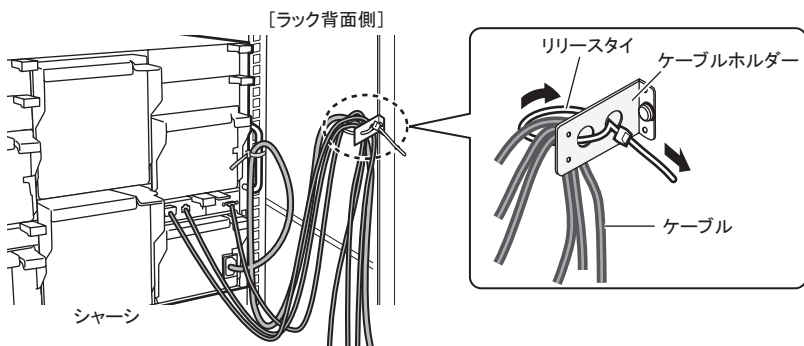
電源ケーブルをシャーシに接続したあと、シャーシ背面にある左右のハンドル部に添付のリリースタイを通し、電源ケーブルを固定してください。シャーシを前面に引き出すときに電源ケーブルが抜け落ちることを防止します。



- ・シャーシの電源ケーブルを抜くときは、必ずシャーシ側の電源コネクタを抜くようにしてください。
- ・電源ケーブルをリリースタイで固定するときは、電源ユニットの取り外しに支障が出ない位置で固定してください。
- ・電源ユニット増設時は、シャーシ添付のリリースタイを使用して電源ケーブルを固定してください。

■ ケーブルのフォーミング処理

周辺装置を接続したあと、ラックに添付のケーブルホルダーに、ケーブルをまとめてリリースタイで固定します。このフォーミング処理により、ラックに複数のサーバが搭載されている場合でも、ケーブルが見分けやすくなります。



7 電源を入れて、ハードウェアを設定する

本サーバを正常に動作させるため、各ブレードの設定をします。

- ・マネジメントブレードおよびスイッチブレードのパスワードの設定と、マネジメントブレードの時刻の確認／設定を必ず行ってください。
- ・マネジメントブレードおよびスイッチブレードで行った設定は、画面のハードコピーやメモなどで記録しておいてください。
- ・本書に記載されていないオプションの設定については、各オプションのマニュアルを参照してください。

■ マネジメントブレードの設定

シャーシのメイン電源を入れる前に、マネジメントブレードに対してパスワードなどの初期設定を行います。

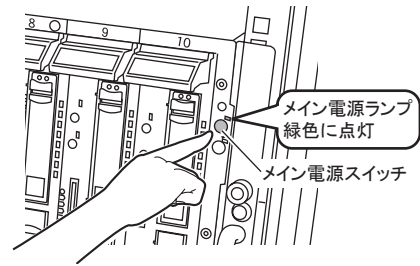


マネジメントブレードハードウェアガイド ▶▶ 「2.3 初期設定」

■ シャーシのメイン電源を入れる

- ・ シャーシのメイン電源は、電源ケーブルを接続してから2分以上たったあとに入れてください。
- ・ ここではサーバブレードの電源は入れません。

- 1 ラックドアを開けます。
- 2 ディスプレイなどの周辺装置の電源を入れます。
- 3 シャーシ前面のメイン電源スイッチを押します。
電源ランプが緑色に点灯するまで押し続けます。



■ スイッチブレードの設定

搭載されているスイッチブレードそれぞれに対してパスワードなどの初期設定を行います。設定の詳細については、スイッチブレードのマニュアルを参照してください。

VLAN の設定はここでは行わないでください。

■ サーバブレードの設定

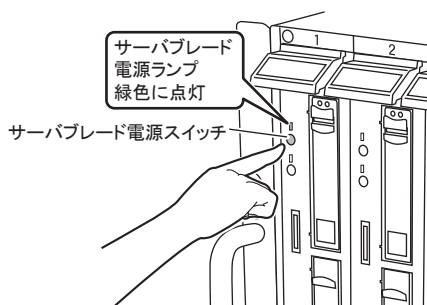
サーバブレードの電源を入れ、以下の場合に BIOS セットアップユーティリティの設定を行います。
搭載されているブレードごとに設定してください。

- ・ 本サーバを起動するドライブを変更するとき
- ・ リモートインストールを行うとき
- ・ オプション装置を取り付けたとき

📀 **ユーザズガイド** ▶▶ 「第8章 ハードウェアの設定／各種ユーティリティ」

ハードウェア構成や BIOS セットアップユーティリティなどの設定値は、添付の『環境設定シート』内の該当する箇所に記入しておいてください。

- 1 ディスプレイなどの周辺装置の電源を入れます。
- 2 サーバブレードの電源を入れます。



3 ハードウェアの設定を行います。

1. サーバ起動時 (POST 実行中) に「Press F2 to run Setup」と表示されたら、メッセージが表示されている間に、【F2】キーを押します。
2. BIOS の設定を確認／変更します。
3. Exit メニューで「Save Changes and Exit」を選択し、【Enter】キーを押します。
4. 【←】【→】キーで「OK」にカーソルを合わせて【Enter】キーを押します。

4 サーバブレードの電源を切ります。

BIOS セットアップユーティリティ終了後すぐに、サーバブレード電源ランプがオレンジ色に点灯するまでサーバブレード電源スイッチを押し続けます。

8 OSを開封する

OSインストールタイプの場合は、以下の手順でOSを開封してください。

ディスクスタンプの場合、および Windows Server 2008バンドルタイプの場合の OSインストール方法については、『ユーザーズガイド 第4章 OSの手動インストール』をご覧ください。

■ Windows Server 2003 R2 の場合

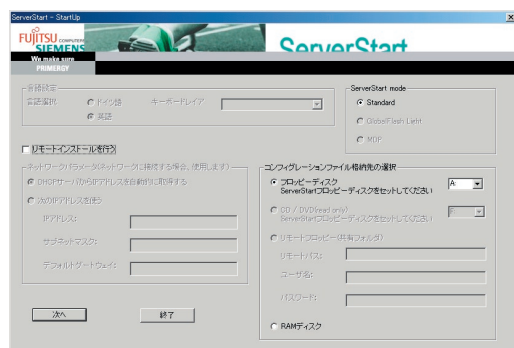
ここでは、ServerStartを使用した Windows Server 2003 R2インストールタイプの開封手順について説明します。

ServerStartを使用した他のインストール方法については、『ユーザーズガイド 第3章 ServerStartによるOSインストール』を、ServerStartを使用しないOSの手動インストール方法については、『ユーザーズガイド 第4章 OSの手動インストール』をご覧ください。

ServerStart を使用して開封作業を行っている途中で失敗があった場合は、OS の新規インストールを行う必要があります。再度開封処理は行えません。

- 1 サーバブレードの電源を入れ、すぐにPRIMERGY スタートアップディスクをセットします。

しばらくすると ServerStart が起動し、コンフィグレーションファイルの格納先を選択する画面が表示されます。



「スタートアップディスク (ServerStart) を使用すると、画面サイズの変更 高信頼性ツールのインストールが可能です。スタートアップディスクを挿入し、Ctrl+Alt+Del を押してください。」という画面が表示された場合は、PRIMERGY スタートアップディスクが CD/DVD ドライブにセットされていることを確認し、[Ctrl] + [Alt] + [Del] キーを押してください。

- 2 「RAM ディスク」を選択し、[次へ] をクリックします。

「システムがリブートされるとすべての設定情報は失われます」と表示されます。

- 3 [OK] をクリックします。

「お使いのシステムは、OS インストールタイプです」と表示されます。

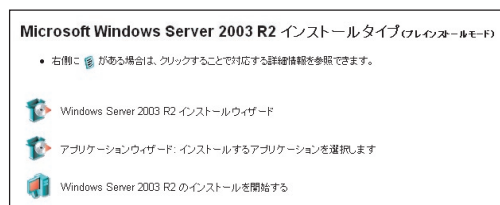
- 4 [OK] をクリックします。

「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。



- 5 [Windows Server 2003 R2 インストールタイプの設定] をクリックします。

プレインストールモードが起動します。



- 6 [Windows Server 2003 R2 インストールウィザード] をクリックします。

「Windows Server 2003 R2 インストールウィザード」が起動します。

ウィザードに従って、OS インストールタイプの開封情報を入力します。

1. Administrator のパスワードを設定し、[次へ] をクリックします。
2. 「コンピュータ識別情報」画面の各項目を設定し、[次へ] をクリックします。
3. 「タイムゾーンとインストール先ドライブ」画面の各項目を設定し、[次へ] をクリックします。

Cドライブのサイズを変更できます。サイズは、4100 (MB) ~ハードディスク容量の範囲で指定可能です。

4. 「ユーザ情報」の各項目を設定し、[次へ]をクリックします。
5. 「ネットワークプロトコル」画面の各項目を設定して、[ウィザード終了]をクリックします。
「Windows Server 2003 R2 インストールウィザード」が終了し、「Microsoft Windows Server 2003 R2 インストールタイプ (プレインストールモード)」画面に戻ります。

7 [アプリケーションウィザード] をクリックします。

「アプリケーションウィザード」が起動します。
高信頼ツールなどのアプリケーションのインストールを設定します。

1. 「インストール可能なアプリケーション」のリストから、追加でインストールするアプリケーションを選択し、[>>]をクリックします。
選択したアプリケーションが「インストールするアプリケーション」のリストに移動します。
2. 追加インストールするアプリケーションすべてについて上記の手順1を繰り返し、「インストールするアプリケーション」リストに設定します。
3. [ウィザード終了]をクリックします。
「アプリケーションウィザード」が終了し、「Microsoft Windows Server 2003 R2 インストールタイプ (プレインストールモード)」画面に戻ります。

8 [Windows Server 2003 R2 のインストールを開始する] をクリックします。

「ライセンス契約」画面が表示されます。

設定した内容に誤りがあると、エラーが表示されます。
正しい値を直接入力して、処理を続行してください。

9 ライセンス契約の内容を良くお読みになり、[同意する] をクリックします。

OSの設定を行ったあと、高信頼ツールのインストールが開始されます。

設定情報によって、途中アプリケーションの CD/DVD をセットするようメッセージが表示されます。指示に従って CD/DVD をセットし、[OK] をクリックしてください。

10 CD/DVDを取り出すようにメッセージが表示されたら、PRIMERGY スタートアップディスクを取り出し、[OK] をクリックします。

システムが再起動し、自動的に各種設定が行われます。この間何度かシステムが再起動しますが、キーボードやマウスに触れずにそのままお待ちください。

ServerView をインストール中に、コマンドプロンプト画面が短時間に閉じたり開いたりしますが、インストール処理に問題はありません。

11 完了メッセージが表示されたら、[Enter] キーを押します。

12 システムを再起動します。

1. 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックし、「再起動」を選択します。
シャットダウン画面が表示されます。
2. オプションを選択し、[OK] をクリックします。

13 RAID 管理ツール (ServerView RAID) の各設定を行います。

設定方法については、アレイコントローラ ドキュメント & ツール CD 内のマニュアルを参照してください。使用する SAS アレイコントローラのマニュアルについては、『ユーザーズガイド 2.3.3 RAID を構成するときの留意事項』を参照してください。

・アレイ管理者アカウントの設定

ServerView RAID を使用するとき Windows のユーザアカウントが必要です。「raid-adm」というグループを作成し、同グループ内にアレイ管理者用の任意の名前のアカウントを作成してください。

・HDD チェックスケジューラの設定

SAS アレイコントローラカード (MegaRAID SAS) をご使用の場合は、HDD チェックスケジューラの設定を運用に合わせて適宜変更してください。デフォルトでは、毎日 12:00 に設定されています。

■ Linux の場合

運用前に、必ず各ディストリビューションの『ご使用の手引き』を参照し、システム環境、操作前に必要な設定などについて確認してください。『ご使用の手引き』は、PRIMERGY スタートアップディスク内の「Linux」を選択して参照してください。また、ご利用のときは、PRIMERGY スタートアップディスクおよび、本体に添付の Linux 一式の添付品を使用してください。

root パスワードについて

Linux インストール代行サービスバンドルタイプをご購入の場合、ご購入時の root パスワード (管理者パスワード) は以下に設定されています。

jW%m9zPn

セキュリティのため、パスワードは必ず変更してください。
パスワードの変更方法については、『ご使用の手引き』を参照してください。

9 電源を切り、残りのオプション装置を取り付ける

UPS装置など、インストール後に取り付けるオプション装置を取り付けます。

🔍 ユーザーズガイド ▶▶ 「第7章 内蔵オプションの取り付け」

- 1 フロッピーディスクドライブおよび CD/DVD ドライブなどに媒体がセットされていないことを確認します。
- 2 各サーバブレードの OS を終了します。
OS 終了後、サーバ本体の電源が自動的に切れます。OS を終了してもサーバブレードの電源が切れない場合は、サーバブレード電源ランプがオレンジ色に点灯するまでサーバブレード電源スイッチを押し続けます。
- 3 シャーシ前面のメイン電源スイッチを押します。
シャーシのメイン電源ランプが消灯するまで押し続けます。
- 4 ディスプレイなどの周辺装置の電源を切ります。
- 5 オプション装置を取り付けます。

- ・オプション装置の取り付け終了後、必要に応じてネットワークブレードの VLAN や BIOS セットアップユーティリティの設定を行ってください。設定方法は、スイッチブレードのマニュアル、『ユーザーズガイド 第8章 ハードウェアの設定／各種ユーティリティ』、各オプションのマニュアルを参照してください。
- ・UPS 装置を取り付けた場合は、必要に応じて BIOS セットアップユーティリティの設定を行ってください。設定方法については、『ユーザーズガイド 5.5.6 高機能無停電電源装置 (UPS) を使用する場合』を参照してください。



故障

- ・サーバブレードの電源を切ったあと、再び電源を入れるときは、10 秒以上待ってから電源スイッチを押してください。
電源を切ったあとすぐに電源を入れると、サーバ本体の誤動作、および故障の原因になります。
- ・サーバブレードの電源を切ったあとにサーバブレードをシャーシから取り外す場合、またはシャーシの電源ケーブルを取り外す場合は、20 秒ほど待ってから作業を行ってください。

10 障害発生に備えて

障害発生に備えて次の設定を行ってください。

🔍 ユーザーズガイド ▶▶ 「第5章 OS インストール後の操作」

- ・メモリダンプ取得の設定
メモリダンプ取得の設定を行うことで、システムで STOP エラー（ブルースクリーン）やハングアップが発生した場合に、デバッグ情報を保存できるようになります。デバッグ情報を保存しておくことで、エラー発生時の原因分析に役立てることができます。
- ・システム修復のためのバックアップデータ作成
Windows Server 2008 では、サーバ構成全体をバックアップできます。自サーバ以外の共有フォルダまたは DVD などにバックアップデータを作成することで、システムが万が一の場合に、作成したバックアップデータを使用して復旧できます。インストール後に、サーバ構成全体のバックアップを行ってください。
- ・システム設定情報の退避
BIOS 設定情報を退避しておくことにより、設定情報が失われたときに元の情報に復元できます。
本サーバ設置時に、お客様ご自身で BIOS 設定の退避を行い、保管してください。退避した BIOS 設定情報は保守時に使用します。
- ・ソフトウェアサポートガイドの確認
ソフトウェアサポートガイドとは、ソフトウェアトラブルの原因を調査するうえで必要な情報収集をサポートするツールです。PRIMERGY では標準機能として、ソフトウェアトラブル発生時の情報収集をサポートするように設定されています。
詳細は、『ユーザーズガイド 9.2.4 トラブル発生時の情報収集』を参照してください。

設定が完了したら、運用前に必ず各種留意事項をご確認ください。

🔍 ユーザーズガイド ▶▶ 「5.5 サーバ運用前の留意事項」

運用開始後の保守については、『ユーザーズガイド 第9章 運用と保守』を参照して内容をご確認ください。

11 サポート&サービス

● PRIMERGY 情報の提供について

各種ドライバや BIOS、ファームウェア、高信頼ツールなどの最新モジュールを、弊社インターネット情報ページ (<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/downloads/>) にて提供しております。システム安定稼働のため、常に最新モジュールを適用して運用されることを推奨します。なお、最新モジュールのダウンロード、および適用作業については、お客様ご自身で実施いただきますようお願いいたします。弊社にて作業実施をご依頼されるお客様は、有償にて承っております。担当営業員、または販売店までお問い合わせください。

● SupportDesk について (有償)

システムの安定稼働に向け、保守・運用支援サービス「SupportDesk」のご契約をお勧めします。ご契約により、ハードウェア障害時の当日訪問修理対応、定期点検、障害予兆／異常情報のリモート通報、電話によるハードウェア／ソフトウェアの問題解決支援、お客様専用ホームページでの運用支援情報提供などのサービスが利用できます。詳細は、SupportDesk紹介ページ「製品サポート」(<http://segrou.fujitsu.com/fs/>) を参照してください。

● 最新の修正モジュールの検索・適用について

Windowsをご使用の場合、「UpdateAdvisor」(本体装置)を適用していただくことをお勧めします。詳細は『ユーザーズガイド』を参照してください。

Linuxをご使用の場合、UpdateSite (SupportDeskご契約のお客様向け) から、UpdateAdvisorと UpdateManager を入手してご使用ください。ご利用いただくときには、SupportDeskサービスのユーザ IDが必要です。

● 製品・サービスに関するお問い合わせ

製品の使用方法や技術的なお問い合わせ、ご相談については、製品をご購入されたときの販売会社、または弊社担当営業員・システムエンジニア(SE)にご連絡ください。PRIMERGYに関するお問い合わせ先がご不明なときやお困りのときには、「富士通コンタクトライン」にご相談ください。

富士通コンタクトライン

電話によるお問い合わせ

電話 : 0120-933-200(通話料無料)

ご利用時間 : 9:00～17:30(月曜日～金曜日、ただし、祝日と年末年始を除く)

※富士通コンタクトラインでは、お問い合わせ内容の正確な把握、およびお客様サービス向上のため、お客様との会話を記録・録音させていただきます。

Webによるお問い合わせ

Webによるお問い合わせも承っております。詳細については、富士通ホームページをご覧ください。

<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/>

● 保証について

保証期間中に故障が発生した場合には、保証書に記載の内容に基づき無償修理いたします。詳細については、保証書をご覧ください。なお、保守サポート期間は、お客様のサーバ購入後5年間です。

● 定期交換部品について

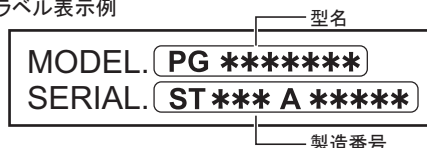
お客様の使用環境や使用時間により、保守サポート期間内に交換が必要になる定期交換部品があります。『シャーシ ハードウェアガイド 6.7 定期交換部品について』、および『ユーザーズガイド 9.8.1 保守サービス』-「■ 定期交換部品について」を参照して、内容をご確認ください。

● 修理ご依頼の前に

本サーバに異常が発生した場合は、『ユーザーズガイド 9.2 トラブルシューティング』を参照して、内容をご確認ください。それでも解決できない異常については、担当営業員または修理相談窓口にご連絡してください。

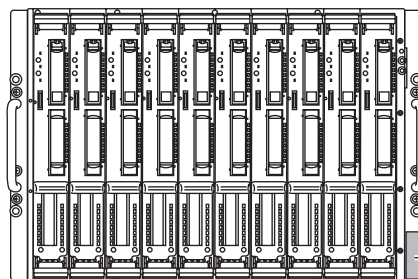
ご連絡のときは、シャーシおよびサーバブレードの下記に貼付のラベルで、記載の型名および製造番号を確認し、お伝えください。

・ラベル表示例



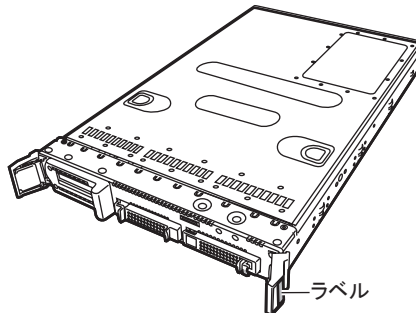
・ラベル貼付位置

[シャーシ]



ラベル

[BX620 S4 サーバブレード]



ラベル

また、事前に『ユーザーズガイド 9.8.2 修理相談窓口にご連絡するときは』をご覧ください。必要事項を確認してください。お客様が回避したシステム設定情報は、保守時に使用します。

●修理相談窓口

- ・ サポートサービス(SupportDeskなど) 未契約のお客様
- ・ 製品保証期間中の保証書による修理
- ・ SupportDeskバック Lite(カスタムメイドオプション) による修理
- ・ 製品保証期間終了後の、サポートサービス(SupportDeskなど) 未契約の場合の修理
 - 当社指定のサービスエンジニアによるオンサイト修理を行います。サービスエンジニアは、連絡を受けた翌営業日以降に訪問します(ただし、故障原因が外付けキーボード、マウスなどの場合、原因部品の良品をお客様ご指定の場所へ送付することも可能です)。
 - サービスの対象製品／作業時間に応じ、技術料／部品代／交通費などのサービス料金をご依頼のつど申し受けます。

富士通ハードウェア修理相談センター

電話 : 0120-422-297(通話料無料)
※音声ガイダンスに従って、お進みください。

ご利用時間 : 月曜日～金曜日 9:00～ 17:00(祝日および 12月 30日
～ 1月 3日を除く)

Web受付 : ハードウェア修理お申し込みページ
<https://eservice.fujitsu.com/webrepair/>

12 リサイクルについて

本サーバを廃却する場合、担当営業員に相談してください。本サーバは産業廃棄物として処理する必要があります。

注意事項

<p>データのバックアップについて</p> <p>本製品に記録されるデータ（基本ソフト（OS）、アプリケーションソフトも含む）の保全については、お客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。また、修理を依頼される場合も、データの保全については保証されませんので、事前にお客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。データが失われた場合でも、保証書の記載事項以外は、弊社ではいかなる理由においても、それに伴う損害やデータの保全・修復などの責任を一切負いかねますのでご了承ください。</p>
<p>注意</p> <p>本製品は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。本製品を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。</p>
<p>本製品は、社団法人電子情報技術産業協会のサーバ業界基準（PC-11-1988）に適合しております。</p>
<p>アルミ電解コンデンサについて</p> <p>本製品のプリント板ユニットやマウス、キーボードに使用しているアルミ電解コンデンサは寿命部品であり、寿命が尽きた状態で使用し続けると、電解液の漏れや枯渇が生じ、異臭の発生や発煙の原因になる場合があります。目安として、通常のオフィス環境（25℃）で使用された場合には、保守サポート期間内（5年）には寿命に至らないものと想定していますが、高温環境下での稼働等、お客様のご使用環境によっては、より短期間で寿命に至る場合があります。寿命を超えた部品について、交換が可能な場合は、有償にて対応させていただきます。なお、上記はあくまで目安であり、保守サポート期間内に故障しないことをお約束するものではありません。</p>
<p>本製品のハイセイフティ用途での使用について</p> <p>本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療器具、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。</p>
<p>本製品は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。 (社団法人電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)</p>
<p>当社のドキュメントには「外国為替および外国貿易管理法」に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。</p>
<p>高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品</p>
<p>使用許諾契約書</p> <p>富士通株式会社（以下弊社といいます）では、本サーバにインストール、もしくは添付されているソフトウェア（以下本ソフトウェアといいます）をご使用いただく権利をお客様に対して許諾するにあたり、下記「ソフトウェアの使用条件」にご同意いただくことを使用の条件とさせていただきます。なお、お客様が本ソフトウェアのご使用を開始された時点で、本契約にご同意いただいたものといたしますので、本ソフトウェアをご使用いただく前に必ず下記「ソフトウェアの使用条件」をお読みいただきますようお願い申し上げます。ただし、本ソフトウェアのうちの一部ソフトウェアに別途の「使用条件」もしくは「使用許諾契約書」等が、添付されている場合は、本契約に優先して適用されますので、ご注意ください。</p> <p>ソフトウェアの使用条件</p> <p>1. 本ソフトウェアの使用および著作権 お客様は、本ソフトウェアを、日本国内において本サーバでのみ使用できます。なお、お客様は本サーバのご購入により、本ソフトウェアの使用権のみを得るものであり、本ソフトウェアの著作権は引き続き弊社または開発元である第三者に帰属するものとします。</p> <p>2. バックアップ お客様は、本ソフトウェアにつきまして、1部の予備用（バックアップ）媒体を作成することができます。</p> <p>3. 本ソフトウェアの別ソフトウェアへの組み込み 本ソフトウェアが、別のソフトウェアに組み込んで使用されることを予定した製品である場合には、お客様はマニュアル等記載の要領に従って、本ソフトウェアの全部または一部を別のソフトウェアに組み込んで使用することができます。</p> <p>4. 複製 (1) 本ソフトウェアの複製は、上記「2.」および「3.」の場合に限定されるものとします。 本ソフトウェアが組み込まれた別のソフトウェアについては、マニュアル等で弊社が複製を許諾していない限り、予備用（バックアップ）媒体以外には複製は行わないでください。 ただし、本ソフトウェアに複製防止処理がほどこしてある場合には、複製できません。 (2) 前号によりお客様が本ソフトウェアを複製する場合、本ソフトウェアに付されている著作権表示を、変更、削除、隠蔽等しないでください。</p> <p>5. 第三者への譲渡 お客様が本ソフトウェア（本サーバに添付されている媒体、マニュアルならびに予備用バックアップ媒体を含みます）を第三者へ譲渡する場合には、本ソフトウェアがインストールされたサーバとともに本ソフトウェアのすべてを譲渡することとします。なお、お客様は、本サーバに添付されている媒体を本サーバとは別に第三者へ譲渡することはできません。</p> <p>6. 改造等 お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブルをとまなうリバースエンジニアリングを行うことはできません。</p> <p>7. 保証の範囲 (1) 弊社は、本ソフトウェアとマニュアル等との不一致がある場合、本サーバをご購入いただいた日から90日以内に限り、お申し出をいただければ当該不一致の修正に関して弊社が必要と判断した情報を提供いたします。 また、本ソフトウェアの記録媒体等に物理的な欠陥（破損等）等がある場合、本サーバをご購入いただいた日から1ヶ月以内に限り、不良品と良品との交換に応じるものとします。 (2) 弊社は、前号に基づき負担する責任以外の、本ソフトウェアの使用または使用不能から生じるいかなる損害（逸失利益、事業の中断、事業情報の喪失その他の金銭的損害を含みますが、これに限られないものとします）に関しても、一切責任を負いません。たとえ、弊社がそのような損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。 (3) 本ソフトウェアに第三者が開発したソフトウェアが含まれている場合においても、第三者が開発したソフトウェアに関する保証は、弊社が行う上記(1)の範囲に限られ、開発元である第三者は本ソフトウェアに関する一切の保証を行いません。</p> <p>8. ハイセイフティ 本ソフトウェアは、一般事務用、パーソナル用、家庭用などの一般的用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本ソフトウェアを使用しないものとします。ハイセイフティ用途とは、下記の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>原子力核制御、航空機飛行制御、航空交通管制、大量輸送運行制御、生命維持、兵器発射制御など</p> <p style="text-align: right;">富士通株式会社</p>

Microsoft、Windows、Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

Adobe、Acrobat、Reader は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。